

# 高商連ニュース

高知県商工団体連合会 NO.991(53-18)  
〒780-8035 高知市河ノ瀬町33  
TEL088-832-4838 FAX088-832-3126  
Eメール kosityoren@citrus.ocn.ne.jp  
ホームページ http://kosityoren.web.fc2.com/  
このニュースはホームページでもご覧になれます

## 申告対策・事業復活支援金 集まって学習・話し合いを 仲間増やしもよろしく

### ■2022年 春の運動

1/23 現在	拡 大					成果 会員
	読者	会員	共済	婦人	青年	
安芸	1	0	0	0	0	1
香美郡	1	0	1	0	0	1
南国	2	0	1	0	0	2
高知	5	4	0	0	0	1
仁淀川	0	0	0	0	0	0
須崎	0	0	0	0	0	0
中村	0	0	0	0	0	0
計	9	4	2	0	0	5

成果会員：読者か会員を拡大した会員(紹介含む)



**新聞折込チラシに問い合わせ**

1月24日の高知新聞に「民商のチラシ(先週のニュースで紹介)を折り込みました(高知市内以外。高知民商は別日にポストイングします)」。さっそく、6件の問い合わせがありました。内訳は、「コロナ」事業復活支援金について4件、申告に関連して1件、インボイス制度について1件です。

各民商に、手配り、対話用のチラシがありま。宣伝、仲間増やしに大いに活用しましょう。

## 参議院選挙に向け「連合・芳野会長の発言は、混乱をもたらした」と意見書

日本労働組合総連合 芳野友子会長 様

2021年12月  
高知憲法アクション

### 次期参議院選挙に向けた市民連合の役割強化に向けた意見書

第49回衆議院選挙において、市民と野党の共同による統一政策の実現・多くの選挙区における候補者の一本化を実現しながら、結果として自民党の議席は微減にとどまり、維新が台頭するなど改憲勢力が3分の2以上を占めることとなったことを受けて、野党共闘の中軸であった立憲民主党を中心に動揺が広がり始め、保守系論者からは、「野党共闘が左に寄りすぎて、それに違和感を持つ中間層の国民の支持を失った」「政策合意を見直して、中間層・保守層に接近しないと政権交代は望めない」との大合唱が始まっています。

しかし、小選挙区では、候補者統一がなった214選挙区のうち、62選挙区で勝ち、32選挙区では1万票以内の差に持ち込んでいるのであり、少なくとも「小選挙区では、共闘効果は出ている」ことは明らかです。

17年衆議院では、希望の党の登場とそれへの対抗として立憲民主党が台頭しました。今回は、立民への対抗・反発として、維新が伸びました。「自民党に不満を持つ保守層」と「野党共闘に違和感を持つ中間層」は一定数存在し、その取り込みがこの国の支配層の危機感があることは事実でしょう。「右へウイングを伸ばすべき」論や「立憲共産党」論による攻撃はその表れと言えます。しかしこのことは、私たち市民と野党の共闘の進化・発展に対する支配層の危機感からであることが本質です。

その意味で、芳野会長の「連合として、共産党との共闘は

認めない」との繰り返しのご発言は、上に述べた「野党共闘に対する違和感」を助長し、連合組織内に混乱をもたらした、各労組の足を止めることにつながりました。

私たち全国で野党共闘を進めてきた市民や労組は、「政権交代を目的としているのではなく、政権交代を通じて、立憲主義を徹底して政治を国民の手に取り戻すこと、新自由主義で疲弊に追い込まれた国民のあたりまえの生活を取り戻すことを目的として」、野党共闘を推進してきました。「右へウイングを伸ばす」ことを否定するものではありませんが、それは、政策をすり寄らせるということではなく、「中間層や右の人たちとの会話を増やす。私たちが目指す国家像を明確に示す」ことです。

高知においては、連合高知とも連携した市民と立憲野党の共闘は、16年参議院選挙からスタートし、19年参議院選挙においては、共産党籍を持つ候補者を野党統一候補として闘った際にも、連合高知とは一定の信頼関係のもとに闘いを推進しました。今回の衆議院選挙においても、連合高知との協力関係のもとに、市民と野党の共闘を進めてきました。

芳野会長のご発言は、全国の地方連合の立場を反映したものでなく、混乱をもたらしたものであることを認識いただき、上に述べた市民と立憲野党の共闘の目指すものと意義を踏まえて、今後の対応をお考えいただくよう要請いたします。それこそが、2003年に連合評価委員会から示された「働く国民の利害を代表する組織に名実ともになり、国民が連帯できる組織となるために、労働組合が思い切った変身を遂げる必要がある。」との提言を体現するものであると確信します。

### 参議院選挙 マツケンを統一候補に!?

徳島県側と協議

夏の参議院選挙・高知徳島選挙区の候補者について、高知憲法アクションは、2019年の参議院選挙と県知事選挙の候補者だった松本けんじ氏(マツケン)を野党統一候補として戦うことを確認しています。

合区のため高知県だけでは決定できないので、現在、徳島県側の市民団体(オール徳島、徳島市民連合)、野党と協議をすすめています。

憲法アクションとしては「1月中の候補者決定」をめざしていますが、時期及び誰が候補者になるか流動的です。

この間の国政選挙、知事選挙の敗因の一つは、「候補者決定が遅れた」ことです。高商連として、早期の候補者決定を求めています。

高商連(民商連)は、昨年の総会でも、「高知憲法アクション」が擁立又は推薦・支持する候補者については、政党の公認候補であっても高商連として支援することを、あらかじめ確認しています。

高商連常任理事会は、候補者決定がされ次第、学習・対話用のチラシの作成、対話支持拡大を会員に呼び掛けることを確認しています。みなさんのご協力をお願いします。

参議院選挙の投票日は7月10日が予定されています。